



# 学校だより

横浜市立相武山小学校

9月号

令和4年8月31日

～ まちのみんな ひとつになあれ ～



## 「フィンランドの教育」

学校長 後藤 直樹

いっこうに収まらない感染拡大と、連日の東北・北陸地方や北海道での大雨で日々のニュースが埋め尽くされていた、そんな夏休み期間でした。コロナ禍での3回目の夏、今年こそは子どもたちになんとか楽しい思い出を残してやりたい。そんな思いで過ごされた保護者の皆様も多かったのではないのでしょうか。

この夏休みに私が手にしたのは、「フィンランドの教育はなぜ世界一なのか」という本です。フィンランドはPISA（15歳児童の学習到達度国際比較）で2000年の1位以来、常に上位にランクされています。現在、フィンランドといえば、ロシアのウクライナ侵攻を機に、中立からNATOへの加盟に大きく舵を切るなど、国全体が危機感をもってその進むべき方向を考えています。今、世界の情勢を見ていると、第二次世界大戦という大きな過ちから、命の尊さについて多くの事を学んだはずの人類が、再び揺れ始めていると感じます。「歴史は繰り返す」という言葉が頭をよぎり、猛暑にもかかわらず背筋が寒くなりました。

さて、この本に書かれている「フィンランドの教育」の目指すところは、多くの知識を習得したり、学力や偏差値を高めたりすることではなく、「いかに学ぶかを学ぶこと」とあります。日本も今、これを手本とし、知識を詰め込む教育からの転換を図っている真っ最中です。そしてもう一つ「創造的、批判的思考を身につけ、自分自身の考えをもった行動的で良識ある市民を育て上げること」とありました。「批判的思考」という言葉に、私はあまり良いイメージはありませんでしたが、考えてみれば体勢や一時の感情だけに流されてしまうことのないしっかりとした自己を確立し、主張できる人間を育てることが、独裁者や権力者の暴走を生み出さない究極の平和実現・維持の方法なのかもしれません。

現在もなお、感染症拡大防止対策ということで、これまで行ってきた形での行事の実施や、対話を中心とした授業はやり難い状況が続いていますが、自らの考えをしっかりともち、積極的に発信できるような「ひかりの子」の育成に向けて、これからも保護者・地域の皆様と共に活気のある学校づくり目指してまいります。



夏休みに大きな花を咲かせたヒマワリ  
(園芸ボランティアのおかげです)